

令和元年(2019年) 8月13日
長野県病虫害防除所

*移植期：2019年5月20日
* 平年：過去7年のうち収量の最多、最少を除く7中5年の平均値

病虫害発生予察 7月月報

(生育概況及び病虫害の調査結果)

7月の気象表 (長野地方気象台)

官 署		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
		長野	本年	22.5	22.7	26.5	51.0	35.0	50.0	30.1
	平年	22.5	23.4	25.2	47.2	57.2	30.1	48.4	46.0	74.4
松本	本年	22.3	22.3	26.0	34.0	69.0	35.0	25.6	26.1	69.0
	平年	22.5	23.4	24.7	48.7	59.7	30.0	51.1	47.5	72.7
諏訪	本年	21.1	21.1	24.5	53.5	102.5	94.0	21.6	21.5	65.4
	平年	21.7	22.5	23.9	70.8	83.6	37.0	48.5	46.5	70.9
軽井沢	本年	16.5	17.7	21.6	64.5	70.5	137.0	6.4	14.3	50.5
	平年	18.4	19.5	20.6	62.2	74.4	52.8	40.3	38.6	58.9
飯田	本年	22.5	22.1	25.7	56.5	142.0	56.5	20.9	18.6	59.3
	平年	22.9	23.7	25.1	75.8	98.4	41.8	47.3	47.6	73.5

天気は、前線や湿った空気の影響により、曇りや雨の日が多くなった。このため、月平均気温は平年並か低くなったが、月の終わり頃は太平洋高気圧に覆われて、晴れて気温が上がり、猛暑日となった所があった。月降水量は平年並か多く、月間日照時間は少ないかかなり少なくなった。気象庁予報部では、「関東甲信地方は7月29日ごろに梅雨明けしたと見られる」と発表した(速報)。

1 水 稲

(1) 生育概況

第1表 イネの生育状況 (須坂市：農業試験場作物部)

品種名	区分	移植後30日			移植後40日			幼穂形成期	出穂期
		主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m ²		
あきたこまち	平年	8.6	36	448	9.9	52	608	7/ 6	7/27
	前年	7.5	29	288	9.1	39	591	7/ 6	7/26
	本年	7.5	27	316	9.3	39	586	7/ 8	7/30
コシヒカリ	平年	8.3	37	465	9.8	51	679	7/12	8/ 4
	前年	7.9	35	372	9.4	46	622	7/13	8/ 3
	本年	7.5	29	301	9.4	43	612	7/16	8/ 7

第2表 イネの生育状況 (原村：農業試験場原村試験地)

品種名	区分	移植後40日			移植後50日			幼穂形成期	出穂期
		主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈葉数	草丈 cm	茎数 本/m ²		
ゆめしなの	平年	9.0	54	540	10.1	70	578	7/ 9	8/ 4
	前年	8.8	57	521	10.0	74	582	7/11	8/ 2
	本年	9.0	50	253	9.6	59	403	7/15	8/ 7

*移植期：2019年5月24日
* 平年：過去7年のうち収量の最多、最少を除く7中5年の平均値

(2) 病虫害の発生状況

1) いもち病

7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生は確認されなかった。下旬の巡回調査では北信地方、東信地方の一部地域で軽微な発生を確認したものの、平年に比べると少ない発生であった。

アメダスデータによる葉いもち感染好適条件の判定では、6月の感染好適条件の出現数が全県で平年の3割程度と少なく、初発が遅れたものと推測される。しかし、7月10日以降の感染好適条件の出現数は平年に比べて1.5～2倍と多く、7月下旬に病斑が増加するほ場も見られたため、7月25日付けで注意報第2号(イネいもち病)を発表し、注意を喚起した。

2) 紋枯病

7月下旬巡回調査では平年に比べ少ない発生であった。

3) 白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

7月の巡回調査では発生は確認されなかった。

4) ばか苗病

7月の巡回調査では、過去3カ年に比べて発病株率は少ないものの、発生を確認した地点数は多かった。

5) ヒメトビウンカ

7月下旬巡回調査(ネット20回振)における捕獲頭数は平年に比べて少なかったが、捕獲地点割合は、中南信地方で平年に比べて多かった。

6) ツマグロヨコバイ

7月下旬の巡回調査(ネット20回振)における成虫捕獲頭数は平年に比べてやや多く、捕獲地点の割合も平年に比べて多かった。

7) イネドロオイムシ

7月上旬の巡回調査では、平年に比べて少ない発生であった。

8) セジロウンカ

7月下旬の巡回調査では、平年に比べ少ない発生であった。

9) トビイロウンカ

7月の巡回調査、予察灯の誘殺調査で発生は確認されなかった。

10) イナゴ

7月下旬の巡回調査(ネット20回振)では、捕獲頭数、捕獲地点割合ともに東北信地域では平年並、中南信地域では平年に比べてやや多い傾向であった。

11) フタオビコヤガ(イネアオムシ)

7月下旬の巡回調査(ネット20回振)では、平年に比べてやや少ない発生であった。

12) イネツトムシ(イチモンジセセリ)

千曲市における黄色粘着トラップを用いた誘殺調査によると、誘殺数は平年に比べて少なかったが、第1世代成虫の発生最盛期は7月第5半旬~6半旬とみられ、ほぼ平年並みの発生時期であった。

第3表 イチモンジセセリ第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺消長(千曲市)

月・半旬	7・1		7・2		7・3		7・4		7・5		7・6		8・1	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
7・1	0.3	0	2.8	0	13.0	3	22.4	4	29.2	4	27.1	6	15.3	1

*黄色粘着版1, 200cm²(20cm×20cm×3枚)当たりの誘殺数。平年:過去10年の平均値。

13) カメムシ類

予察灯による誘殺調査では、全6地点でアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数が6月6半旬以降平年に比べて多い傾向であった。

7月上旬及び下旬の巡回調査(ネット20回振)における捕獲頭数は全般に平年に比べて多かった。このことから、斑点米が多発する恐れがあるため、7月25日付で注意報第1号(斑点米の原因となるカメムシ類)を発表し、防除の徹底を呼びかけた。

表4 斑点米カメムシ類の本田すくい取り(ネット20回振)による捕獲状況(7月上旬)

調査地点数	捕獲地点率(%)		1地点当り捕獲数				斑点米カメムシ類の捕獲数(捕獲割合(%))							
	本年	平年	本年			平年	計	カメムシ類						
			平均	最多	最小			アカヒゲホソミドリカスミカメ	ホソミドリカスミカメ	アカヒゲカスミカメ	ホソミドリカスミカメ	アカヒゲカスミカメ	ホソミドリカスミカメ	
東信	15	26.7	20.7	0.9	11	0	0.5	14	14	0	0	0	0	0
南信	19	40.0	17.4	0.7	4	0	0.3	13	10	1	0	0	2	
中信	20	45.0	34.0	3.2	23	0	0.8	63	62	0	0	0	1	
北信	17	29.4	31.3	1.1	12	0	1.3	18	18	0	0	0	0	
計	71	36.1	25.7	1.5	0.8	108(100%)	104(96%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	3(3%)		

注) 調査方法: 本田においてすくい取り(ネットを20回振)で捕獲された斑点米カメムシ類(成虫及び幼虫)を調査した
 平年: 過去10年の平均値 捕獲地点率(%): 調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合
 1地点当り捕獲数: 捕獲数計(成虫数+幼虫数)÷調査地点数

表5 斑点米カメムシ類の本田すくい取り(ネット20回振)による捕獲状況(7月下旬)

調査地点数	捕獲地点率(%)		1地点当り捕獲数				斑点米カメムシ類の捕獲数(捕獲割合(%))						
	本年	平年	本年			平年	計	カメムシ類					
			平均	最多	最小			アカヒゲホソミドリカスミカメ	ホソミドリカスミカメ	アカヒゲカスミカメ	ホソミドリカスミカメ	アカヒゲカスミカメ	ホソミドリカスミカメ
東信	15	20.0	5.8	0.3	11	0	0.1	5	5	0	0	0	0
南信	19	25.0	20.7	0.5	4	0	0.6	10	0	0	0	2	8
中信	20	40.0	23.2	1.3	23	0	0.7	25	2	0	8	12	3
北信	17	29.4	3.5	0.4	12	0	0.1	6	5	0	0	1	0
計	71	29.2	14.2	0.6	0.4	46(100%)	12(26%)	0(0%)	8(17%)	15(33%)	11(24%)		

注) 調査方法: 本田においてすくい取り(ネットを20回振)で捕獲された斑点米カメムシ類(成虫及び幼虫)を調査した
 平年、捕獲地点率(%), 1地点当り捕獲数は第4表と同じ

2 りんご

(1) 生育概況

第1表 りんごの果実肥大状況(須坂市: 果樹試験場 単位: mm 比: 平年比%)

調査日	つがる								ふじ							
	縦径				横径				縦径				横径			
	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年
7/1	52.5	106	49.7	54.0	57.9	102	56.6	62.1	47.1	105	44.7	49.8	52.3	102	51.2	58.6
7/15	62.1	105	59.1	62.7	70.3	103	68.6	73.2	55.3	105	52.8	58.5	62.9	102	61.5	69.3
8/1	71.0	105	67.8	70.9	81.0	103	78.9	82.6	63.4	105	60.3	64.2	72.4	102	71.0	77.0

注) 平年は2004年~2018年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

1) 斑点落葉病

全般に平年並みの発生であった。

2) 黒星病

北信地域を中心に発生がみられているが、平年より少ない発生量であった。

3) 褐斑病

一部のほ場でみられているが、平年並みの発生であった。

4) 黒点病

一部のほ場でみられているが、平年並みの発生であった。

5) 果実腐敗性病害

巡回調査で発生はみられず、平年並みの発生であった。

6) ハダニ類

発生が多いほ場もあるが、平年並みの発生であった。

7) シンクイムシ類

巡回調査で、シンクイムシ類による果実被害が一部で認められた。

果樹試験場(県予察ほ場)のフェロモントラップ調査では平年並みの誘殺であるが、他のフェロモントラップ調査(スモモヒメシンクイ)では平年よりやや多い誘殺数であった。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長(須坂市: 果樹試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平年	8.1	2.8	0.8	2.1	3.3	7.6
本年	11	8	0	0	0	0

注) 平年は過去10年の平均値

8) リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では被害新梢、果実被害葉みられず、平年並みの発生であった。

第3表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平年	0.0	0.2	0.2	0.3	0.0	0.0
本年	0	0	0	0	0	0

注) 平年は過去10年の平均値

9) キンモンホソガ

果樹試験場のフェロモントラップ調査では、第2世代成虫の発生時期及び誘殺は平年並みであった。

巡回調査での被害は、散見されるものの被害葉率は平年並みであった。

第4表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平年	104.6	125.5	207.2	208.3	132.5	118.9
本年	26	130	311	194	72	29

注) 平年は過去10年の平均値

なし

(1) 生育概況

第1表 なしの果実肥大状況（高森町：南信農業試験場）（単位：mm）

品 種	区分	6月15日		7月1日		7月15日		8月1日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	平年	32.2	30.7	38.3	35.5	47.1	43.0	62.2	55.2
	前年	36.7	35.1	44.1	40.4	56.1	50.2	68.9	60.5
	本年	29.6	27.6	36.1	32.8	46.1	41.6	59.0	51.6
幸 水	平年	37.6	31.9	45.4	37.7	60.1	48.9	78.0	63.5
	前年	32.5	27.8	40.6	33.8	51.1	41.8	69.6	56.4
	本年	33.7	28.4	42.9	35.2	56.0	46.1	74.2	60.5
豊 水	平年	39.6	36.4	46.7	41.8	59.1	51.8	74.8	65.6
	前年	33.3	31.3	40.3	37.1	49.1	44.6	65.2	57.6
	本年	30.2	27.1	37.8	33.4	48.1	42.3	62.8	55.2

平年値は1990～2010年のデータによる（幸水は長果枝と短果枝の平均）

(2) 病害虫の発生状況

1) 黒斑病

南信農業試験場の「二十世紀」殺菌剤無散布樹での果実への発病は、7月上旬から増加し、下旬には92.7%となった。巡回調査では、一部で発生がみられたが、平年並みの発生であった。

第2表 果実の発病率（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布樹）

年	6月			7月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	1.3	3.1	13.1	35.1	68.3	79.4
前年	1.7	8.7	26.5	36.4	95.1	-
本年	0.0	0.9	0.0	11.3	38.0	92.7

平年は過去10年平均値

2) 黒星病

南信農業試験場の「幸水」殺菌剤無散布樹での果実への発病時期は、平年よりも遅く経過したが、下旬には平年並みの95.6%となった。巡回調査でも葉や葉柄での発病が若干みられ、平年並みの発生であった。

第3表 果実の発病（南信農業試験場「幸水」殺菌剤無散布樹）

年	6月			7月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	46.0	50.2	58.2	68.46	76.4	85.1
前年	83.8	87.3	88.8	98.9	-	-
本年	10.9	12.9	20.6	64.3	81.7	95.6

平年は過去10年平均値

3) うどんこ病

巡回調査ほでの発生はほとんどみられず、平年並みの発生であった。

4) 輪紋病

巡回調査ほでの発生はみられず、平年並みの発生であった。

5) 枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

巡回調査ほでの発生はみられず、平年並みの発生であった。

6) リンゴコカクモンハマキ

巡回調査ほでの寄生は認められず、平年並みの発生であった。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平年	0	0	0.3	0.5	0.3	0.5
前年	0	0	1	0.5	2	1
本年	0	0	0	0	0.5	0

平年は過去10年平均値

7) ナシヒメシクイ

南信農業試験場のフェロモントラップ調査において誘殺数は少なく、発生量は「少ない」であった。巡回調査ほでの寄生は認められず発生量は少なかった。

第5表 ナシメシクイのフェロモントラップ誘殺消長(高森町：南信農業試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平 年	1.7	0.7	1.5	1.6	2.9	3.5
前 年	0.5	0.5	8	8	1.5	2
本 年	1	1	0	0	0	0

平年は過去10年平均値

8) モモシクイガ

南信農業試験場のフェロモントラップ調査では誘殺はなく、発生量は平年並みであった。巡回調査での寄生はみられなかった。

第6表 モモシクイガのフェロモントラップ誘殺消長(高森町：南信農業試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平 年	0	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4
前 年	0	0	0	0	0	0
本 年	0	0	0	0	0	0

平年は過去10年平均値

9) ハダニ類

巡回調査ほのナミハダニの寄生密度は昨年比べて低いもののすべての地点で発生が確認されており、発生量は平年並みであった。

10) カメムシ類

南信農業試験場のフェロモントラップでは、チャバネアオカメムシ誘殺数は少なかったが、他地区の調査では平年より多い地点もあった。

第7表 カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺状況(南信農業試験場)

調査場所	種類	年	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
高森町	クギ	平年	0	0.3	0.1	0	0.1	0.1
		前年	0	0	1	0	1	1
		本年	0	0	0	0	0	1
	チャバネ	平年	12.5	10.5	15.2	28.9	17.8	9
		前年	6	15	34	8	7	3
		本年	5	4	0	0	0	0

平年は過去10年平均値

4 もも

(1) 生育概況

第1表 ももの生育状況(須坂市：果樹試験場)

品 種	月日	縦 径(mm)			横 径(mm)			側 径(mm)			指 数		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
あかつき	7/6	58.5	60.4	54.2	57.1	60.8	54.0	55.5	60.7	52.6	33.0	36.8	29.2
	7/13	63.3	65.3	58.0	61.8	66.7	58.6	61.2	69.2	58.7	39.1	43.0	34.2
	7/20	69.9	72.1	63.3	69.5	73.8	64.9	70.1	76.5	66.3	49.0	54.4	42.1
	7/27	73.3	74.8	67.6	76.2	76.9	70.2	78.1	82.3	73.4	56.7	59.7	48.9
	8/3	78.6	-	74.4	81.3	-	73.8	85.3	-	78.2	65.7	-	56.7
川中島 白 桃	7/6	50.8	55.2	49.7	50.7	54.4	49.9	46.6	50.6	46.3	24.8	29.0	24.0
	7/13	53.7	57.8	51.9	53.5	57.3	52.6	49.9	55.7	49.7	27.9	32.7	26.7
	7/20	58.0	61.9	54.9	57.9	61.9	56.1	55.5	59.3	53.9	33.0	37.6	30.4
	7/27	59.6	65.3	58.8	61.7	65.6	60.8	60.7	65.2	59.5	36.8	42.8	35.6
	8/3	65.2	68.4	63.3	67.2	70.0	66.0	67.3	70.5	65.9	44.1	48.2	42.1
	8/10		71.4	68.0		74.2	71.8		75.4	72.8		53.5	49.5

注) 平年値：あかつき(2011年～2018年の平均) 川中島白桃(1985年～2018年の平均)

指数=縦径×(横径+側径)÷2÷100

(2) 病害虫の発生状況

1) せん孔細菌病

巡回調査では、風当たりが強いほ場を中心に葉や果実に発病がみられており、発生量はやや多いから多い発生であった。

2) 灰 星 病

巡回調査では発生がみられず、平年並みの発生であった。

3) 黒 星 病

巡回調査では発生がみられず、平年並みの発生であった。

4) ハダニ類

巡回調査では一部のほ場で発生がみられたが、平年並みの発生であった。

5) モモハモグリガ

巡回調査では発生がみられず、平年並みの発生であった。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長(須坂市：果樹試験場)

月・半旬	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
平 年	136.7	152.2	263.5	126.6	64.8	98.2
本 年	14	11	4	4	1	

注) 平年は過去10年の平均値

6) ハマキムシ類

巡回調査で発生がみられず、平年並みの発生であった。

7) シンクイムシ類

巡回調査で発生がみられず、平年並みの発生であった。

5 **ぶどう**

(1) 生育概況

第1表 ぶどう(巨峰)の果実肥大状況(須坂市:果樹試験場)

月/日	横径(mm)			縦径(mm)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
7/1	17.7	18.2	14.8	20.4	21.0	17.3
7/8	21.6	21.2	19.0	23.8	23.8	21.6
7/15	24.2	22.5	21.6	26.4	24.7	24.1
7/22	25.4	23.4	22.8	27.5	25.3	24.9
7/29	26.9	24.9	23.9	28.0	26.4	25.7
8/5	27.9	25.5	25.3	29.3	27.5	26.9

注) 平年値は、2006年～2018年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

1) 灰色かび病

巡回調査では発生はみられず、平年並みの発生であった。

2) ベと病

巡回調査では発生がみられず、平年より発生は少なかった。

3) さび病

巡回調査では発生はみられず、平年並みの発生であった。

4) うどんこ病

巡回調査では発生はみられず、平年並みの発生であった。

5) 黒とう病

巡回調査では発生はみられなかったが、シャインマスカット園では発生がみられる園もあった。

6) チャノキイロアザミウマ

巡回調査では寄生による被害はみられなかった。

10) クビアカスカシバ

フェロモントラップ調査では、誘殺数が例年と比べてやや多く、発生量はやや多かった。

7 **野菜・花き**

(1) 生育概況

上旬から中旬にかけて、曇天及び降雨が続いたため、日照は平年に比べて少なくなり、気温も一部地域で低くなる場所があった。下旬以降は、日照時間、気温とも平年並となった。露地ものの果菜類、はくさい、キャベツ、レタスなどでは、生育に影響が出た場所があった。

(2) 病害虫の発生状況

1) トマトの病害

巡回調査では、南信及び中信の露地(ジュース用トマト)ほ場で、輪紋病がみられた。促成栽培ほ場では南信の一部で、灰色かび病がみられた。

2) きゅうりの病害

巡回調査では、中信及び北信の施設(促成)栽培ほ場で、うどんこ病がみられた。

3) アブラナ科野菜の病害虫

病害では、巡回調査において、中信の一部地域のキャベツ及び東信地域のはくさいで軟腐病がみられ、東信の一部地域のキャベツ及びブロッコリーで黒斑細菌病がみられた。また、南信の一部地域のブロッコリーでは黒すす病がみられた。虫害では全般にコナガ、ウワバ類等のチョウ目害虫の食害が多い場所があった。コナガについては後述する。

4) レタスの病害

巡回調査では、軟腐病が東信及び中信の一部地域の収穫期のほ場でみられた。

5) アスパラガスの病害虫

巡回調査では、南信及び北信の一部地域で茎枯病がみられた。

虫害ではアザミウマ類及びアブラムシ類が目立つ場所があった。

6) ねぎの病害虫

巡回調査では、南信及び中信の一部地域で黒斑病とさび病がみられた。

虫害ではネギアザミウマ及びネギハモグリバエが目立つ場所があった。

7) きくの病害虫

巡回調査では、南信の一部地域で白さび病がみられた。

8) コナガ(アブラナ科野菜)

巡回調査では、各地のキャベツ及びブロッコリーで食害がみられた。

フェロモントラップへの誘殺数は、諏訪郡原村(防除適期決定ほ)では、昨年と同様に、期間を通して誘殺数は平年より多かった。また、東筑摩郡朝日村(地区発生予察ほ)では第5半旬に急増した(第1表)。

第1表 フェロモントラップによるコナガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	4	5	4	8	6	3
小諸市山浦（同 佐久支場）	5	14	30	23	9	
諏訪郡原村（防除適期決定ほ）	56	32	33	32	19	37
東筑摩郡朝日村（地区発生予察ほ）	30	30	18	48	142	51
上田市菅平高原（地区発生予察ほ）	3	5	2	3	4	4
長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）	5	4	4	9	12	25

9) オオタバコガ

巡回調査では、中信の施設（促成）及び露地（ジュース用トマト）栽培ほ場で葉や茎への被害がみられた。

フェロモントラップへの誘殺数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）は平年並であったが、豊丘村（防除適期決定ほ）では期間を通して誘殺数は平年より多かった。他の調査地点では、全般に平年並みであった（第2表）。

第2表 フェロモントラップによるオオタバコガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	4	8	11	19	16	8
小諸市山浦（同 佐久支場）	6	24	9	6		
須坂市（農業試験場）	1	4	5	12	11	8
豊丘村（防除適期決定ほ）	64	46	47	59	39	48

10) ヨトウガ類

巡回調査では、チョウ目害虫の被害がみられたが、ヨトウガ類と断定できるものはなかった。

フェロモントラップへの誘殺数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）でヨトウガ及びハスモンヨトウにおいて、第3半旬以降急増した。その他は全般に平年並であった（第3～5表）。

第3表 フェロモントラップによるヨトウガ誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市（野菜花き試験場）	5	3	2	8	16	18
須坂市（農業試験場）	0	2	3	3	0	2

第4表 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市（野菜花き試験場）	9	15	8	22	44	18
須坂市（農業試験場）	2	10	4	4	7	7
上田市（地区発生予察ほ）	4	4	3	4	5	4

第5表 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市（野菜花き試験場）	5	2	1	1	1	2
長野市（地区発生予察ほ）	0	0	0	1	1	1

11) ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、北信の露地栽培きゅうり、南信のセルリーで潜葉痕がみられ、ねぎ（南信及び中信地域）で被害が目立つところがあった。

12) アブラムシ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、中信地域のすいか及び南信地域のアスパラガスで寄生がみられた。

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長調査では、全般に平年並であったが富士見町（地区発生予察ほ）及び塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）では、前年に比べ飛来数はかなり多かった（第6表）。

第6表 黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	9	17	22	3	-	1
小諸市山浦（同 佐久支場）	16	4	4	12		
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）	96	174	88	31	5	5
富士見町（地区発生予察ほ）	38	41	77	74	94	18
上田市菅平（地区発生予察ほ）	2	3	4	1	1	1
長野市（地区発生予察ほ）	5	5	5	1	1	2

13) アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

巡回調査では、各地のねぎ及び中信地域）及びアスパラガスで寄生がみられた。

地区発生予察ほにおける、青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長調査では、塩尻市洗馬で第2半旬、上田市で第4半旬に急増した。その他は全般に平年並であった（第7表）。

第7表 青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長

調査場所	月・半旬					
	7・1	7・2	7・3	7・4	7・5	7・6
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）	87	133	276	430	153	21
富士見町（地区発生予察ほ）	11	18	20	35	60	38
上田市（地区発生予察ほ）	13	13	12	45	22	16
長野市（地区発生予察ほ）	4	5	7	8	8	9

14) ハダニ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、北信地域の露地きゅうり、中信地域のすいか及び東信地域のアスパラガスでみられた。